

〈高柳会長と一問一答〉月星会の会長を務めて

明るく、楽しいふれ愛を心がけた1年

高柳会長が挨拶に立つと、なんだか空気が和らいた。会長なのだから皆、リスペクトしている。が、姿勢を正して聞こうという雰囲気は、ない。

挨拶が始まれば、どこかで笑いが起こる。ときには、ヤジも飛ぶ。漫談をしているわけではない。話の中身はしっかりある。ある日の例会では、話が長くなって途中で司会が強制終了！ それくらいに、中身は豊富なのである。

この独特の挨拶は、意図して行ってきたらしい。

そんな高柳会長に、1年間月星会の会長を務めた感想を率直に聞いてみた（取材日5月7日、桜木観光本社にて）。

1年は短かったけれど

——あと1カ月で総会です。1年って、早いですね。

高柳 本当に早い。あつという間で、何もできなかったという印象もあります。

——昨年、会長に就任した時に打ち出したスローガンが「人と人のふれ愛を大切に」でした。高柳さんらしいユニークなフレーズだと思いました。

高柳 そう、“触れ合い”じゃなくて、“ふれ愛”ですね。これは私なりによく考えたスローガンでした。

——スローガンは、会長の活動方針ともいえるのですが、1年間やってみてその方針は実現できたと思いますか。

高柳 いえいえ。今言ったように、1年間じゃ何もできなかったなあというのが率直な感じなのですが、それでも私なりに実行してきたことはあります。会の活動そのものじゃないのですが、違った形でスローガンを実現させたといいますか……。

——具体的には？

高柳 まあ、会長の義務だと思ってすべての行事に参加しましたが、会長というのは必ず行事の冒頭で挨拶に立たなければなりませんよね。その挨拶を工夫したのです。

——あの柔らかな挨拶ですね。なるほど、スローガンの実現として意図的にやっていたのですか。高柳さんらしい自然体の挨拶でしたが。

高柳 自然体といえば自然体ですよ。会長挨拶だからと、かしまる必要もないですし、一方通行で話をするだけじゃ面白くないでしょう。実はこれ、前年に副会長として締めの挨拶をするときから考えてやってきましたよ。次年度は会長だから、今から下地を作っておこうと思ってね（笑）。例会の締めの挨拶で笑って帰ってくれば、また来月も参加しよう

INDEX

会長インタビュー……………	1
春の宴・臼井先生連載……………	2
会員企業訪問……………	3
例会委員会/叙勲/スケジュール ……	4
会員異動/編集後記……………	4



高柳 そう、“ふれ愛”を考えていたんですよ（笑）。

という気にもなるでしょう。そういう雰囲気づくりが大切じゃないかと。——なるほど。前年からちゃんと準備万端整えていたわけですか。

全体として楽しかった！

——委員会の運営はどう感じていましたか？

高柳 委員会はみんな一生懸命やっていたと思います。例会委員会なんか本当によくやってくれました。女性経営者に絞った卓話の良い企画でしたね。

——広報委員会も結構盛り上がっていましたよ。“ふれ愛”のテーマで（笑）。

高柳 委員会の中では、助け合いという形で“ふれ愛”が実現していたかもしれません。良いことですね。いずれにせよ、各委員会がしっかり活動しているので、委員会で決めてことは尊重しようと考えていました。今年度から副会長が例会委員長を兼ねたり、会長経験者が委員長やったりと、初めての試みもやりましたが、それもよかったですよ。

——会長を務めて、全体として満足している？

高柳 何もできなかったという感想もありますが、でも1年間会長をやってみて、楽しかったですね。

——それは何より。私たちからは、ひたすら感謝です。

（取材・構成／広報委員会）



春のうらの隅田川♪

平成27年3月28日
土曜日、天気は花曇り。38名の参加をいただいて春の宴「屋形船観桜会」が行われました。



桜の花の満開をこれほどに心待ちにしたことがあったでしょうか。

あと一息という桜。それでも夕暮時、淡紅色の桜に感嘆の声が上がりました。

徳川八代将軍吉宗さんの時代、堤に大がかりな桜の植栽が行われたようです。隅田川の堤を見物客の足で強固にするという狙いだったとか。

船中では揚げたての美味しい天ぷらが運ばれ、「春のうらの隅田川」のカラオケで宴の幕が開けました。

お台場の沖で停泊してもらい、ほろ酔い記念写真をパチリ。皆さん、最高の笑顔でした。

今回の春の宴でもたくさんの方々のお力添えをいただきました。ありがとうございました。委員会一同、1年間の感謝とともに厚く御礼申し上げます。

(親睦委員長 竹口満代)

〈特別寄稿〉

屋かた船お花見の思い出

小学校3年生 内山 由梨子

わたしは、屋かた船に乗るのが、はじめてなので楽しみにしていました。

バスの中からはあまりさくらが見えなかったけど、船に乗るとたくさんさくらがさいて、とてもきれいでした。

スカイツリーや東京タワー、かんらん車、フジテレビなどが見えました。

お食事もおいしかったです。まどから見たけしきは、いつまでも心にのこっています。みんなでとった写真は、アルバムにはってあります。

本当に楽しいお花見でした。



連載

うすい日出男の 〈こくせいふかん〉の目

憲法改正を考える

～ 改正の期は熟せり！～

先般、安倍総理がアメリカを訪問し、大統領と親しく会談し、上院・下院合同会議で、英語で朗々と所信を述べた。なにぶん共に横文字なので、内容は不明だが、テレビの画面から放たれるオーラに、強い感動を覚えると共に、戦後70年にして初めて憲法改正という重要なことがらを、安倍総理ならやり遂げてくれると確信した次第です。

58対0の反省

この58対0というのは、ドイツの基本法(憲法)改正は戦後58回に対し、日本の憲法改正はゼロであり、その反省を意味している。我が国では何事も穏やかに対処しようとする国民性から、憲法上問題が起きてすぐ憲法改正ではなく、憲法の解釈を変えることによって対処してきた。代表的な例を挙げれば、我が国では憲法第九条で戦力(軍隊)は持たないと定めているが、現実には自衛隊という国際的に見ても極めて強力な軍力を保有しており、一方、それが故に憲法を改正せよとする意見は過去にも多く

出てこない。これは日本人の国民性によるところが大である。しかし、憲法改正をしないで解釈改憲に頼っていると、歪みが段々と溜まってくるのは当然のことで、今、戦後70年にして初めて現実に憲法改正の期が熟してきたといえる。

一つ目の節目が来年の参議院議員選挙の結果で、この選挙で衆議院に続いて参議院でも憲法改正勢力が3分の2を超えるならば、憲法改正の発議ができることになる。

次の段階は国民投票で、項目ごとに国民に改正の賛否を問うていくことになるので、集団的自衛権問題を含めた我が国の防衛のあり方についても、今から国民の皆さんにしっかりと理解を得る努力をしていかなければならない。

前号でも述べた現憲法前文の問題点。憲法前文とは憲法がどのような理念で創られたかを示す一番大切な部分であって、「我が国の安全」を自らの決意と努力ではなく、「平和を愛する諸国民」に委ねるとする現日本国憲法は、現状の北朝鮮の存在などを考えるならば明かな誤りであって、この際、はっきりと改める必要がある。ぜひとも関心を持っていただきたいと思います。



元衆議院議員 白井日出男

第20回 福井サービス工業(株)

「待ちの仕事」から脱して業容拡大!

社内マネジメントにも大ナタ

3年前の月星会会長であり、チャーターメンバーということもあり、加藤隆さんの会社について大半の会員はよく知っている。ただ、加藤さんの会社でじっくり話を聞くと、会社の実体は私が伝え聞いていたイメージとは少し違っていた。

どう聞いていたのかといえば、「加藤さん会社? 福井電機の仕事をしているんだよね」という感じである。

間違いではない。社名からしてその通りになっている。ホームページを見ても、「会社概要」ページの中身は、ほとんど福井グループであるし、「あゆみ」には「昭和42年5月 福井電機株式会社よりサービス部門分離独立」と書いてある。

しかし、これらの説明は会社の実体を的確に伝えていない。最も的確に伝えていているのは、月星会会員名簿の「会員向けPR」である。こう記されている。

〈ビル・工場等の設備をトータルでお引き受けいたします。設備は生きています。故障前の予防保全があなたの大切な設備を守ります。〉

抽象的ではあるが、これが加藤さんの会社の事業であり、福井電機の一部門でも下請けでもなく、れっきとした独立企業なのである。

ちなみに、株式(資本金1200万円)の保有比率は、社長の加藤さんが3分の1、残りの大半は社員持ち株で、福井グループの総括会社・(株)福井はわずか10%を保有しているにすぎない。

あえて福井グループのままに

ところで、先に触れたHPは、10年前に加藤さん自身が制作したものだ。会社が10年前と大きく変わっているわけではないので、そのままにしているようだが、それではなぜ、福井色をここまで濃く打ち出してHPを作ったのだろうか。

「営業的なメリットです。設備関係の県内市場では、福井電機はよく知られたブランドですし、福井電機=日立というイメージもあります。そのイメージをあえて手放す必要もないかな、と」

面子にこだわらず、営業上メリットとなるものは遠慮なく使わせてもらう。そんな心境だろうか。加藤さんらしい感じもする。

しかし、こうも言う。

「うちは、福井電機のサービス部門が分離してできた会社ですから、設立時は福井グループの創始者、福井孝太郎さんが社長で、私の父が専務でした。



父は、福井電機のサービス部長でしたから。そのあと社長になり、67歳の役員定年で引退して、息子の私が承継したので、3代目になります。しかし、3代目とか2代目(父の後継者)と見られるのは、いやでしたね」

過去形で言っているが、今でもあまり好まないはずだ。会社の歴史を辿れば、3代目であることは事実なのだが、今日の業容は必ずしも事業承継だけで成り立っているものではない。加藤さんの代になり、自分なりに開拓してきた30年間の積み重ねが同社の今日を築き上げているという自負があるのだろう。

諸設備の便利屋のごとく

現在の同社の事業内容はきわめて幅広い。一言でいえば、前述の会員名簿にあるように、ビル・工場等の設備保全であるが、「設備」の分野や種類を正確にあげると、あまりにも長くなる。ここは、加藤さんの言葉に助けてもらおう。

「ポンプ、モーター、コンプレッサー、クレーン、空調といったところですね。これだけの設備を1社でカバーしている会社はないんです。役所の担当者から重宝がられ、異動してもその異動先から頼まれます。ありがたい話です」

便利屋のように頼りにされているわけだが、こうなるまでには、加藤さんが社長になってから重点的に取り組んだ戦略が大きく作用している。

「それまでは、壊れたら修理するという“待ちの仕事”でした。これじゃ暇な時もあるし、不安定。そこでオーバーホール、すなわち定期的な予防保全を重点戦略にしてこちらから仕掛けていく営業に変えていったのです」

それに合わせて、社内のマネジメントも大幅に改革していった。父親もそうだったが、もともと技術屋で社内のマネジメントは弱いところだったが、セミナーや本で勉強しまくり、自分なりに自社用に工夫して学んだものを採り入れていったそうだ。

加藤さんも、間もなく67歳。「そろそろかな?」と言う。子どもが承継する可能性は「ゼロ」で、心当たりとしては加藤さんと同じく好奇心旺盛な社員の一人らしい。

(取材・文/奥平)

例会委員会報告

3月夕食例会 平成27年3月25日(水)

3月の夕食例会は統一地方選挙の直前ということもあり、選挙に出馬される会員の方に月星会の推薦状をお渡しすると共に抱負をお話いただきました。



卓話は千葉県商工労働部次長の戸部知子様を講師にお迎えし、「商工業における今後の千葉県の動向」というテーマでお話をいただきました。平成27年度の予算が成立直後だったため、27年度の施策の中から経済分野について詳しく説明をいただきました。

4月夕食例会 平成27年4月23日(木)

4月の夕食例会では卓話に千葉不動産流通協同組合代表理事の山本要子様を講師にお迎えし、お話を伺いました。物流業界の会社を定年退職後、不動産業界に携わり、地縁のない千葉で事業を広げていった経緯や、現在の事業内容についてエピソードも交えながらお話ししていただきました。



そのほか、統一地方選挙に出馬された会員の方から、選挙への協力のお礼や今後の抱負などのお話がありました。

(例会委員会副委員長 永田洋子)



4月のお誕生日の方々

山本康昭相談役が叙勲されました



この度、春の叙勲において「納税功労」により「旭日双光章」を授与されました。

4月29日の新聞発表の後、5月14日(金曜日)に港区の「三田共用会議所」において財務大臣から勲章を授与され、その後夫婦同伴で皇居の「豊明殿」において天皇陛下の拝謁を賜りました。

場内を廻られた天皇陛下からは直接「お元気ですか」のお言葉をかけて頂いたのは幸運であり、生涯忘れられぬ思い出となりました。

これも皆さんのお蔭と、心より感謝申し上げる次第であり、謹んでご報告いたします。(山本 康昭)

6月～8月のスケジュール

平成27年度 定時総会			
6/5(金)		18:00受付 18:30開会 ホテルグリーンタワー幕張 3F チェルシー 参加費 会員無料	
6/10(水)	役員会	18:30開会	ホテル菜の花
6/25(木)	夕食例会	18:30開会	鯨割烹みどり 参加費 会員3,000円 ビジター4,000円
7/1(水)	役員会	18:30開会	ホテル菜の花
7/23(木)	夕食例会	18:30開会	鯨割烹みどり 参加費 会員3,000円 ビジター4,000円
8/5(水)	役員会	18:30開会	ホテル菜の花
8/27(木)	夕食例会	18:30開会	鯨割烹みどり 参加費 会員3,000円 ビジター4,000円

編集後記

▼役不足を承知しながら広報委員長の大役を引き受け、どうなることやらと不安だらけの1年でした。副委員長やアドバイザーの先輩諸氏に助けられ、会報だけは毎号なんとか乗り切ることができました。ご多忙にもかかわらず玉稿を賜りました各委員会の方々や会員の皆さまにこの場を借りて厚く御礼申し上げます。取材名目で会の行事にはできる限り参加したのですが、親睦旅行やビール工場見学など広報の立場を忘れて楽しませていただきました。月星会は本当に素晴らしい異業種交流会だと思います。(内藤)

▼高柳会長との一問一答は、笑いの絶えないひと時でした。30分程度のつもりが、2時間。会報の紙面を占拠できるくらいの濃さがありました。「お互いに得意を発揮し、助け合いながら面白可笑しく交流できる会でありたい」という言葉が強く印象に残っています。(奥平)